



建築人

8

2015



くる道筋がある。

「結局ぼくは、合理主義建築というものの限界を見たような気がして、建築というものは、たとえば経済的な合理性ばかりを追求してもどうにもならないんだというようなことを身につまされて知ったわけだ。（中略）コルビュジエは近代建築というのはラシヨナリズムの建築だとはっきりといつていたけれども、ぼくはそのラシヨナリズムの建築というのはそのままでは日本ではやせた建築になっていくと思った。やせた、老いさらばえた建築を近代建築で合理化、正当化するのはいまざいと思つて、そのころやたらと大きな屋根のある建物を設計した。」（『新建築』一九八四年一月号）

前川は、近代建築の行方に対する危機感から、そして、おそらく雪深い弘前での手痛い失敗から、この時点で日本の伝統的な建築の屋根に注目し、それが建物に象徴性と雨露を凌ぐ原理性を与えることに気づき、この小さなクラブハウスにおいてその手がかりとなる実践を試みたのだろう。極論すれば、このクラブハウスには、大階段と大庇、奥行の深いバルコニー、室内と外部が一体となつて周囲の風景へとつながる空間構成など、前川が追い求めた公共空間の原型が初めて具現化されていると言つてよいと思う。それは、戦時下に伝統と向き合つた前川國男自邸（一九四二年）に続く貴重な遺産に他ならない。その姿が次の時代へと引き継がれ、市民の寄り集う場所として再生されることを願わずにはいられない。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

が、公表されている資料によれば、数年前から、（仮称）都立高井戸公園として整備する計画が進められ、隣接する国立印刷局の運動場と王子製紙のグラウンドに続いて東京都が今年二月に買収し、この秋から整備工事に着手するという。周辺も含め都立公園として整備されること自体は喜ぶべきことに違いない。それでも、市民のための公園として整備する際に、なぜ人々に親しまれてきた建物を取り壊す必要があるのだろうか。公園計画を立案する過程で、周辺住

記憶の建築 松隈 洋

NHK 富士見丘クラブハウス 1954 年
戦後木造モダニズム建築の行方



骨太な構造と大庇が印象的な正面外観



伸びやかな2階のバルコニー

民との対話やこの場所の歴史的な経緯の確認がおろそかにされた結果なのだろうか。しかし、改めて見直すとき、このクラブハウスには次のような特筆すべき歴史的な意味と価値があることにも気づかされる。この建物は、『新建築』一九五七年九月号の巻頭に掲載された。室内の延床面積が二〇〇㎡ほどの小規模な木造建築が、なぜ竣工から三年近く経過した時点で巻頭に取り上げられたのだろうか。その冒頭には次のような「編集者」の言葉が添えられていた。

おそらく当時の編集部員であった宮内嘉久によつて記されたと推測されるこの紹介文からは、木造建築の伝統を現代へ活かす方法が明快に示されたことに対する共感が読み取れる。さらに、そこに、同じ一九五四年に竣工した神奈川県立図書館・音楽堂や弘前中央高校講堂、続くブリュッセル万国博覧会日本館（一九五八年）や京都会館（一九六〇年）、東京文化会館（一九六一年）を並べ、最晩年の次のような前川國男の回想を付け加える時、見えて

このまま跡形もなく姿を消してしまうのだろうか。今年五月、近くに暮らす市民の方から、現在私が代表を務める近代建築の保存を提唱する国際学術組織の日本支部である DOCOMOMO Japan 事務局に貴重な情報が寄せられた。それは、前川國男が戦後初期に手がけた小さな木造建築として知られる旧・NHK富士見丘クラブハウス（一九五四年）の取り壊しを含む公園計画が進んでいるという内容だった。その文面には、「この建物は敷地がNHKの保養施設だった頃から施設全体のシンボリックな建物で、近隣住民にも親しまれていましたので、新しい公園計画においてもこれを生かしながら保存するような計画に変更して欲しい」との切実な願いも綴られていた。

この建物は、東京都杉並区久我山の玉川上水沿いにNHKが所有する運動場の一角に職員のための保養施設として建てられた。竣工当時の平面図を見ると、一階に更衣室や浴室などがあり、二階には食堂と厨房が配置されている。寄せられた市民の言葉にもあるように、長い間、NHKの職員だけでなく広く市民にも開放され、普段使いされて親しまれてきたのだろう。私も二〇〇〇年に現地を訪れたことがあり、写真はその際に撮影したものだ。広いグラウンドに面して建つクラブハウスは、八寸の杉丸太とヒノキ材などを用いながら、水平の補強材やスチール製の引張材を巧みに利用して、木造とは思えない堂々とした風格と伸びやかな空間が息づいていた。因みに、設計を担当した田中清雄の文章には、「フォルムは力強く、人間をして生きる喜びを与えるもの、そういう建築を私は創りたい」（『新建築』一九五七年九月号）と記されていた。

そんな歴史と思いが込められた建物だ

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。
本会ホームページの WEB 申込システムから簡単に申込みができます。【詳細は大阪府建築士会ホームページ】http://www.aba-osakafu.or.jp/ まで

INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

二級建築士/設計製図 受験対策講習会

直前対策コース 8/23～9/6
模擬テストⅠ・Ⅱ 8/2、9/6

試験合格だけではなく、実務に活用できる技術指導を行います。

■直前対策コース(模擬テスト1回含む)
日程 8/23(日)、8/30(日)、9/6(日)
時間 9:15～16:45
定員 20名(申込先着順)
受講料 会員40,000円 一般45,000円
■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程 Ⅰ:8/2(日)、Ⅱ:9/6(日)
時間 9:15～16:45
各回定員 25名(申込先着順)
各回受講料 会員13,000円 一般15,000円
会場 (各コース共)大阪府建築健保会館
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車

一級建築士/設計製図 受験対策講習会

課題解説・エスキース 8/22
模擬テストⅠ・Ⅱ・Ⅲ 9/12、9/19、9/26

試験合格だけではなく、実務に活用できる技術指導を行います。模擬テストは通信講座も開設しておりますので、通学の時間がとれない方はぜひご検討ください。

■課題解説・エスキース
本試験課題の設計に必要な計画、構造、法規等について解説のうえ、エスキースの指導を行います。
日程 8月22日(土)
時間 9:00～17:00
定員 40名(申込先着順)
受講料 会員12,000円 一般14,000円
■模擬テスト
本試験と同じ6時間半で製図していただいた図面を講評、指導します。また、宿題課題の添削も行います。
日程 Ⅰ:9/12(土)、Ⅱ:9/19(土)、Ⅲ:9/26(土)
時間 9:00～18:30
定員 【各回】40名(申込先着順)
受講料 【各回】会員14,000円 一般18,000円
会場 (上記のいずれも)大阪府建築健保会館
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車
■【通信講座】模擬テスト
郵送で届く課題の製図を自宅で行いご返送ください。後日、添削のうえ返却いたします。ご自宅への課題到着予定日
Ⅰ:9/12(土)、Ⅱ:9/19(土)、Ⅲ:9/26(土)
定員 【各回】20名(申込先着順)
受講料 【各回】会員12,000円 一般15,000円

国土交通省「インスペクターガイドライン」準拠
建築士会インスペクター養成講座
8/11・10/20 CPD5単位

わが国でも中古住宅の流通の取組みが活発化しており、中古住宅売買時のインスペクション(住宅診断)のニーズが高まっています。国土交通省は平成25年6月に「既存住宅インスペクションガイドライン」を策定し、指針を示しました。

日本建築士会連合会は、長期優良住宅化リフォーム推進事業におけるインスペクター講習団体として国土交通省に登録予定しており、本講座修了者は、建築士会インスペクターとして登録され、建築士会ホームページに掲載します。

日程 ①8月11日(火)
②10月20日(火)
時間 10:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員12,000円 会員外17,000円
(テキスト代・登録料含む)

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/18・1/19 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがって、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程 ①8月18日(火)
②平成28年1月19日(火)
時間 10:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
9/8・12/8・2/9 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。)

日程 ①9月8日(火)
②12月8日(火)
③平成28年2月9日(火)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版本造住宅の耐震診断と補強方法)

被災建築物の応急危険度判定士養成講習会
8/19・10/21・12/16・2/17

地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。建築士であれば本講習の受講により判定士として認定し大阪府に登録されます。

日程 ①8月19日(水) ②10月21日(水)
③12月16日(水)
④平成28年2月17日(水)
時間 13:20～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 無料
テキスト代 1,500円(被災建築物応急危険度判定マニュアル)
申込受付 一般財団法人大阪建築防災センター
※大阪建築防災センターのホームページ
http://www.okbc.or.jp/

デジカメ活用セミナー
今更聞けないデータ処理と活用法
8/21

デジカメ初心者や我流で使っている方の為のデータ処理や活用法を体験するセミナーです。建築見学時の内外観写真はもちろん、工事中の現場写真などの整理にも活用できます。講師 村上栄司(本会建築情報委員会情報サービスWG委員・事業委員会国際分科会委員)
日時 8月21日(金) 18:00～
会場 大阪府建築士会会議室
参加費 1,000円
※参加者は各自ノートPCと撮影データ(SDカード等)をご持参ください。

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助
登録有形文化財寺西家における地域活性化事業
「落語」を登録有形文化財で楽しむ
8/22

登録有形文化財寺西家で毎月、落語会が開演されています。大正末に建てられた町家で、三味線や太鼓の囃子がいいる本格的な上方落語を間近で楽しめます。又、最後に近隣店から提供されたお土産の抽選会もあります。日時 8月22日(土) 午後2時開演

<8月葉月席>
1、雄 俳…………桂 二葉(米二門下)
2、口入屋…………桂 文太(五代目文枝門下)
3、朗 読…………高岡美樹(パソナリティー)
4、お楽しみ……桂 文太(五代目文枝門下)
場所 登録有形文化財寺西家
(Tel.06-6624-7618)
(大阪市阿倍野区阪南町1-50-25)
入場料 当日1,800円 前売・会員1,500円
最寄駅 地下鉄御堂筋線「昭和町駅」下車徒歩1分
(4番出口すぐ右折れ→つ目辻右折れスグ)

伝統木造を中心とした耐震技術～
【震災復興】東日本大震災の被害状況を踏まえて～
8/25 CPD3単位

阪神・淡路大震災から約20年、東日本大震災から約4年が経ちます。この間、住まいの安全はどこまで高まったのか。何が壊れ、何が残り、何が変わったのか。「震災復興」～安全な住まいは可能か～の著書の出版や、日本建築士会連合会「被災歴史的建造物の調査・復旧方法の対応マニュアル」において、木造伝統構法の本格的な補強・改修の執筆を担当された椋原健一氏をお招きし、伝統木造を中心とした耐震設計法や耐震補強技術、木造の新しい耐震技術などについて講演していただきます。
日時 8月25日(火) 13:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
内容 伝統木造を中心とした耐震設計法と耐震補強技術、木造の新しい耐震技術など
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,000円 一般5,000円
テキスト 「震災復興」椋原健一著
新建新聞社 1,500円

受講料全額補助(会員会場受付先着500名)
大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会
8/26～28.1/26

国土交通省が2020年までにすべての新築住宅を対象に適合の義務付けを決定した新省エネ基準に先がけて、設計者に省エネ技術の習得をしていただく講習会です。※建築士会会員は会場受付先着 500 名の受講料を本会が全額補助します。
日程 下記の日程で9回実施します。
8/26・9/2・10/16・10/27・11/20・12/2・12/15・1/15・1/26
時間 9:45～16:45(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
大阪府中央区和泉町2-1-11
定員 各回120名
受講料 会員 本会が補助
会員外1,000円(テキスト代含)
申込 専用のWEBからお申込みください。省エネ講習会【検索】
詳細は今月号同封のチラシをご覧ください。

神戸ウオーカー(予告)
日本最古の民家と農村歌舞伎の舞台・竹中木工道具館の見学
9/12

日時 9月12日(土) 10:00～
場所 箱木千年家・谷上農村歌舞伎舞台・竹中木工道具館
参加費 1,800円(但し昼食代・交通費は自費)
詳細は9月号にて発表します。

大阪木材仲買会館 建築技術講習会～
設計者と開発者が語る「大阪木材仲買会館」と木造の新技術～
9/18 CPD3単位

大阪木材仲買会館は、大断面耐火集成材を採用し、3階建て耐火木造建築を実現した建物です。本建物を担当した設計者・開発者・集成材メーカー―技術者より、本建物の設計と中層大規模木造・耐火木造の新技術について解説していただきます。
日時 9月18日(金) 13:30～17:00
会場 大阪木材仲買会館3階会議室
最寄駅 地下鉄「西長堀」下車
内容 大阪木材仲買会館における全体計画、構造計画、中層耐火木造技術活用のポイントと事例、木材の普及をめざして、建物見学と質疑応答
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,500円 一般5,500円
学生1,000円

住宅を設計する仲間達 オープン勉強会
空き家をどうする?～法・行政の動きと建築士の業務～
9/28 CPD2単位(予定)

国土交通省は本年5月に、放置しておく危険が想定される空き家に対して撤去や修繕などを命令できる、「空き家対策特別措置法」を施行しました。「特定空き家」は、来年度以降には住宅にかかる税金軽減措置の対象外とされます。今後、空き家を所有する市民からの空き家相談を想定して、「空き家対策特別措置法」の内容を知る勉強会を企画しました。同時に、放置されている空家を「資産」として再生するのに欠かせない「インスペクション(住宅診断)」や「耐震診断・改修」について、本会の「インスペクション部会」と「耐震部会」より、活動の紹介と報告も行います。
日時 9月28日(月) 18:30～20:30
会場 大阪府建築士会会議室
講師 藤原省吾(大阪府住宅まちづくり部) 昇 勇(本会インスペクション部会) 森本京治(本会耐震部会)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※住宅仲間達登録者は無料
定員 35名(申込み先着順)

第35回近畿建築祭「和歌山大会」のご案内
10/3 CPD4単位(予定)

今年の近畿建築祭は、世界遺産・霊場高野山に集うと題し、高野山で開催します。会員の皆様の参加をお待ちしております。
日時 10月3日(土) 10:30～16:30
会場 高野山大学
和歌山県伊都郡高野町高野山385
参加費 3,000円(昼食、記念品付)
※エキスカージン2は別途施設入場料が必要です。

スケジュール
9:30～10:20 受付
10:30～12:15 式典・基調講演
12:15～13:30 昼食
13:30～16:00 エキスカージン
①奥の院を巡る
②高野山の国宝・近代建築を巡る
③蓮華院の奥様に聞く!!～暮らしと建物～セッション
①近畿ヘリテージネットワーク報告会
②近畿あーきてくと Vol.23「継ぎ伝える」
16:00～16:30 閉会式
申込締切 8月31日(月)
詳細は今月号同封チラシ「近畿建築祭和歌山大会」をご覧ください。

「hu+g MUSEUM(ハグミュージアム)」館内見学会
10/9

食と住まいに関する新たな情報発信拠点を目指す「hu+g MUSEUM (ハグミュージアム)」内に展示する近未来技術での燃料電池と太陽光発電を組み合わせた省エネルギーな「ダブル発電」を採用したスマートハグハウスや、供給元である大阪ガスによる耐震性向上をはじめとする保安・安全に関する取り組みについて、わかりやすく解説します。また、最新の設備がもたらす便利で快適な暮らしのシーンとガス調理の特徴を活かした美味しいレシピを体感して頂きます。
日時 10月9日(金) 15:00～17:30
集合 hu+g MUSEUM(ハグミュージアム)
受付 14:30～
大阪市西区千代崎3丁目南2-59
内容 15:00～16:30
館内ツアー+スマートhu+gハウスツアー
16:30～17:30 クッキング体験(メニューを下記A・Bの2つから選択してください。※ご希望に添えない場合があります。)
A ライトメニュー
・串カツ3種、おにぎりなど。
B スイーツメニュー
・ミニガトーショコラ・パンケーキなど。
定員 50名(申込先着順)
参加費 会員2,000円 会員外3,000円
(※2日前からのキャンセルには1,500円必要です)
申込締切 10月5日(月)必着

被災地に臨む応急危険度判定士のための技術研修会
11/29 CPD2単位(第1部のみ予定)

応急危険度判定士は、市町村が地震発生後の様々な応急対策の一つとして行うべきものです。ボランティアとして技術協力する民間の応急危険度判定士のバックアップが不可欠です。本研修会では、第1部で兵庫県立大学防災教育研究センター長の室崎益輝氏による最新の防災技術情報の紹介と、大阪府担当者による最新の判定士参集マニュアルの説明を行います。また、第2部の交流会におきましては、大規模災害時の円滑な活動に備え、判定士の交流と絆を深めます。
日程 11月29日(日)
時間 第1部15:00～17:35
第2部17:40～18:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
内容 第1部研修会
①減災の考え方と応急危険度判定
講師 室崎益輝氏(兵庫県立大学防災教育研究センター長)
②判定士参集マニュアルの説明
説明者 大阪府建築防災課担当者
③判定士連絡体制の説明
説明者 本会担当者
第2部交流会
定員 150名(定員になり次第締切)
※どなたでも受講できます。
参加費 第1部研修会費2,000円(資料代含む)
第2部交流会費1,500円(ビール・軽食付)

平成27年度建築士定期講習
12/22、1/28、2/24、3/24 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成24年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。
日程
12/22(火)定員300名 会場コード5C-03
1/28(木) 定員300名 会場コード5C-53
2/24(水) 定員300名 会場コード5C-04
3/24(木) 定員300名 会場コード5C-54
時間 9:30～17:30
会場 大阪国際会議場
最寄駅 京阪中之島線中之島駅下車
申込締切日(申込書必着)
12/22(火)講習:11/17(火)
1/28(木)講習:12/25(金)
2/24(水)講習:1/20(水)
3/24(木)講習:2/26(金)
※簡易書留での郵送のみ受付いたします。
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税込)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

事務局からのお知らせ
夏季休暇のお知らせ

8月12日(水)～14日(金)は休ませていただきます。

■本会の催し参加問合・申込先

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

「検査済証のない既存建築物の増築等における取扱」の運用を検討する民間事業者等の募集

大阪府内建築行政連絡協議会では、「既存建築物の増築等の法適合性の確認取扱要領」の運用について、民間事業者等の知識やノウハウ等を活用し、より効果的・効率的に検討を行うため、企画提案公募により受託事業者を募集しています。

応募期間 8月24日(月)まで
応募条件 一級建築士であることなど
詳しくは、大阪府内建築行政連絡協議会HP
(http://www.cac-osaka.jp/legal_standard/index.php?s_category=12#a92)をご覧ください。

「CADオペレータ」の求職情報
大阪府立芦原高等職業技術専門校の生徒をご採用下さい

芦原技術専門校は、大阪府が設置する公共職業訓練施設です。同校の「建築内装CAD科」では、建築やインテリア業界で活躍できる人材を育成するため、製図、建築CAD、積算や各種建物の基礎知識、インテリアコーディネート、プレゼンテーションの手法などの訓練を行っています。訓練生は修了後の就職先として建築事務所や工務店等での就職を希望しています。求人をお考えの企業の方は、是非、同校までご連絡ください。なお、在校生のプロフィールはホームページで公開しています。
http://www.pref.osaka.lg.jp/tc-ashihara/top-page/jigyonushi.html
問合 芦原技術専門校就職担当
Tel.06-6561-5383

「中之島フェスティバルタワー」建築技術講習会

日程：平成 27 年 6 月 18 日（木） 受講者 96 名

短い時間にもかかわらず、強い印象が残る講習会だった。講習の内容は、主に 4 部分から構成され、建築計画、構造計画、設備計画、施工計画、それに質疑応答があった。冒頭、研修委員会委員長の横田氏からの「一つでも多くお持ち帰りいただき、皆様のお仕事に役立てていただきたい。」というご挨拶の通り、本当によく勉強になった。

日建設計の江副氏は建築計画について話された。特に印象深かったのは、煉瓦にこだわった点や、タワーの角を丸くしたこと、また、ホールの音響と視線の設計等である。どれも基本的だが大切なことばかりで、煉瓦や角の丸みは単にデザイン上の形としてではなく、街の歴史や周辺環境とのつながり、歴史と文化の継承に結びついていることがわかった。音響については、現在の技術が高度化され、昔の手作業 2 次元時代からみればまるで夢のような話であった。構造設計の吉田氏はメガトラスや中間免震

層、地下深層への長杭、それに EV シャフトの中間免震層を通過する際の変形追随機構等について話され、どれも説得力があった。低層部に大ホールがあるがゆえに、こうした結果となった。狭い土地での奇策とは言え、この一連の新技术の応用は、この建物の真価の一つともとらえられる。設備設計の牛尾氏は、中之島の立地条件を生かしたエコな河川水利用の空調システムや、EV シャフトからの外気取り入れ等を話された。実際、会場で 4 時間余りいながら、非常に快適な室内環境を体感できたことが、このシステムが成功している証でもあると思う。施工担当の竹中工務店の岡橋氏の、弾みがあり順序良く施工写真を交えた話は、工程、技術、工作の面々が非常に追真的に解説されていた。講習後に偶然、EV ホールで大面積ガラスの話も交わすこともでき、愉快的ひと時だった。講師の方々の話を聞いた後、建物を見て

盧 永春（研修委員会委員）



回った。高層階から低層階へ、13 階のスカイロビー等、空間構成が単純明快で分かりやすい。低層部にホールが内蔵されたことで、上下方向の動線は多少の齟齬も否めないが、その影響が最小限にとどまっている感がある。この講習会で多くのことを学んだ気がする。中でも、大階段まわりの仄暗い空間に、煉瓦積の独特な凹凸や、コンクリート壁のビシャン叩きなどから生じる微妙な陰影が、恍惚として、時間がまるでとまったような、ものの静けさを感じることができた。



中之島フェスティバルタワー

大阪の別荘建築 朝陽館 見学会 ～大阪市南地域 立上げ記念～

日程：平成 27 年 6 月 28 日（日） 参加者 45 名

昨年 1 月より、大阪市南地域の準備会として、まず、阿倍野区からということで、あべの建築士の会として活動を始めた。この人も？というような方々が、皆さんご近所であることに驚き、ちょっとうれしくもある会である。阿倍野区長や大阪市都市整備局と応急危険度判定士の役割やまちづくりについて意見交換会を実施する一方、阿倍野の歴史も少しずつ勉強する中で、地元では有名な「朝陽館」の見学会の実施案が持ち上がった。私が通った晴明丘小学校の北向かいにあり、学生時代から一度見て見たいと思っていたものの、通りからも外観すら見えず、詳細もあまり公にされていない建物であり、今回初の一般公開となった。明治 40 年に道修町で薬種業を営む小西久兵衛（3 世）によって建てられた別荘で、当日ご講演いただいた京都大学中嶋

節子教授（本会副会長）のお話によると、明治期には軍事演習の視察の際に、当時はホテル等宿泊施設が十分な設備を整えていなかったために、有力者の家に宿泊し、天下茶屋などの別荘地の多くが宿舎となった。その別荘での生活が日常生活へ変容し、郊外住宅となったそうで、大阪の郊外住宅の特徴でもあるようだ。東側に住居部分、そして高低差のある庭を挟んで、西側に接客部分があり、久兵衛 3 世自らの設計。当時の人の文化に対する意識の高さを感じられ、和風建築であるが、書院造とカーペットやシャンデリアなど和洋折衷の華やかな「和風パロック」が印象的である。梅雨の晴れ間のさわやかな風が庭を通して気持ちよく、日本建築の良さを改めて感じた。参加者からも「こんな建築がまだ大阪市内にあったなんて・・・」「よく保存さ

上田仁美（大阪市南地域幹事）



れているが、大変だろうな」などの感想をいただいた。気持ちよく公開くださった朝陽館の皆様、お手伝いいただいたヘリテージ部会及び女性分科会の皆様のご協力に感謝するとともに、今後、地元の大切な財産を建築士としてどう活用し、守っていくか、新たな課題ができた。大阪市南地域の活動の一つとして、今後検討していきたい。



朝陽館・御殿外観

会長動静（抜粋）

- 6/20 総合資格学院合格者OB会懇話会
- 6/30 ビジョン検討委員会
- 7/ 6 日本建築士会連合会女性委員会
- 7/ 8 近畿建築士会協議会
- 7/ 9 大阪市耐震改修支援機構理事会
- 7/14 大阪府堤部長・山下技監訪問
- 7/18 大阪工業技術専門学校120周年祝賀会
- 7/22 大阪市川田局長・國松局長訪問
- 7/24 （一社）日本建築材料協会と懇親会
- 7/30 在阪建築 4 団体会長会議



左 大阪府／堤部長
左下 大阪市／川田局長
下 大阪市／國松局長

運営委員会

府内 43 市町村訪問をスタート

岡本会長は今年度の府内市町村への訪問をスタートしました。スタートに当たり、7月14日に府の堤住宅まちづくり部長と山下技監を、7月22日に大阪市の川田都市計画局長と國松都市整備局長を訪問しました。今後、年内を目処に府内43市町村の首長等の幹部を本会の地元会員と共に訪問し、本会の社会貢献活動の状況を報告するとともに、市町村との連携強化に向けた意見交換を行なう予定です。

運営委員会

二級建築士の学科試験を実施

平成27年の二級建築士学科試験が、7月5日（日）に知事施行試験として全国で実施されました。大阪では本会が実施運営を担当し、近畿大学において、監理員74名体制で受験生を12教室に分けて、厳正かつ公正な運営管理の下で実施しました。受験者数は全国で19,940名、大阪では1,437名と昨年より32名減少しました。製図試験は「3階に住宅のある貸店舗」の課題で、9月13日（日）に府立大学で行います。

建築表彰委員会

第 35 回大阪まちなみ賞の運営

本会が主催事務局を務め、本年度で第 35 回となる大阪都市景観建築賞（愛称大阪まちなみ賞）は、去る 5 月 21 日に運営幹事会が開催されました。座長には本会の中嶋副会長が選任され、募集要項や表彰実施要項等についての検討を行い、今年度からサイン・壁画・彫刻等の建物と一体となった附属物について表彰する「建築サイン・アート賞」が新設されました。応募は 7 月 31 日で締め切られ、審査は 9 ～ 10 月、表彰式は 12 月の予定です。

社会貢献委員会

インスペクター養成講座の開催準備

全国の空家数が 820 万戸を超え、中古住宅の流通を活性化させる取り組みが活発化しています。日本ではこれまで、アメリカやオーストラリアなどの諸外国と比べ、不動産取引の際のインスペクション（住宅診断）はあまり行われてきませんでした。インスペクションにより、消費者が安心して中古住宅を取得し、中古住宅の流通を活性化して、空家減少につながることを期待でき、今後、中古住宅売買時のインスペクションのニーズが高まることが予測されます。インスペクションについては多くの団体が取り組みを進めており、建築士会では日本建築士会連合会において、建築士会インスペクターを全国で養成するために、本会のインスペクション部会委員が中心となり、養成講座のテキストを作成しました。そして、全国の建築士会のトップを切っ

研修委員会

建築士受験対策講習会の開催準備

研修委員会教育分科会では、毎年、一級・二級建築士試験の設計製図課題発表後、受験対策講習会の開催にむけ、各委員が資料収集やテキストの原稿作成を行なっています。模擬テストなどの教材は、委員同士でブラッシュアップを重ねて完成度を高めていきます。講習会で行う少人数制のグループ別添削では、きめ細かな指導を心掛けており、他の受講生の図面講評を聞くことも参考になると毎年好評を得ています。本年から、一級建築士模擬テストの通信講座を、日本建築士会連合会を通じ全国的に PR しており、例年よりも多くの受験生からの申込みが見込まれます。

建築物耐震評価委員会

全国耐震ネットワーク委員会の開催

（一財）日本建築防災協会が事務局を務める全国耐震ネットワーク委員会が、7 月 21 日に東京霞が関ビルで開催されました。ネットワーク委員会には、本会の「建築物耐震評価委員会」が登録しており、会議には本会を含めて全国 103 の登録委員会等から約 200 名の関係者が参加し、平成 26 年度の活動と今年度の活動計画の報告及び、国土交通省等から耐震関連の情報提供がありました。本会の平成 26 年度の評価件数は 25 棟でしたが、全国では延 30,274 棟の評価が行われ、その内 28,086 棟が公立学校や福祉施設等の公共建築物でした。全国の公立小中学校の耐震化率は平成 27 年度末には約 98% まで進捗する見込みで、今後は民間のホテルや病院などの不特定多数が利用する大規模建築物、緊急輸送道路沿道建築物等の耐震化の推進が課題です。



全国耐震ネットワーク委員会

歴史文化の薫る、うるおいのある都市景観を目指して

文 片田 久人

1. はじめに

藤井寺市は大阪平野の南東部に位置し、緑あふれる羽曳野丘陵の北端を占めています。市の北部を大和川、東部を石川が流れ、北東部で合流し、豊かな自然と巨大古墳が数多く存在するなど歴史遺産にも恵まれています。

また、古くから西国三十三箇所観音霊場第五番札所として親しまれている葛井寺や菅原道真公ゆかりの天満宮として高名な道明寺天満宮などの神社仏閣、また、東高野街道を始めとする旧街道など貴重な歴史文化を現代に伝えています。昨今、何かと話題になっている世界遺産ですが、大阪府で初めての世界文化遺産候補の「百舌鳥・古市古墳群」の登録を目指して、大阪府、堺市、羽曳野市とともに様々な取り組みを行っています。

古市古墳群は本市と羽曳野市にまたがる約4km四方に広がり、巨大前方後円墳を中心に四世紀後半から六世紀前半にかけて築造された、約一三〇基もの古墳が確認されています。その内四六基が現存しており、二九基が本市域に分布しています。

世界でも例を見ない極めて貴重な歴史資産が、市民生活の場である都市と共存しています。

ぼす屋上広告物を全面掲出禁止とするなど、古墳群周辺の景観の保全に大きな前進になるものと考えられます。

4. 今後の取組み

これまでの長い歴史のなかで、私たちの生活とともにあり、あまりにも身近な存在であった古墳群が、世界文化遺産登録へ向けての取組みをきっかけに、私たちは改めてその価値の重要性に気付き始めています。

本市におきましても、自治体間競争に生き残るため、市の個性や独自性の発揮が課題となっています。その重要なものの一つが、古市古墳群です。

このことから、この貴重な歴史資産や周辺環境を積極的に保全し、よりグレイドの高い都市景観を実現するため、多くの市民や事業者等の方々を対象とし

2. これまでの経緯

平成一六年に良好な景観を形成することを目的として景観法が制定され、わが国においても景観の重要性が見直され、各地において様々な景観形成の取組みが行われるようになってきました。

そのような、状況のなか平成二二年に「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産暫定一覧表へ記載され、古墳を効果的に保護するため古墳周辺に緩衝地帯を設けるとともに、その景観保全が必要になってきました。

このことから、本市は平成二五年四月に景観行政団体となり、藤井寺市景観条例を制定・施行しました。また、同年一〇月には「藤井寺市景観計画」を施行し、市域全域を景観計画区域に指定するとともに、地域の景観特性に応じた、より良好な景観づくりを目標とする、古市古墳群景観形成促進区域などの、六つの区域を定めて、景観形成に取組んできました。

3. 古市古墳群周辺の景観形成の取組みについて

平成二三年五月一二日に大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市は、知事と三市長をトップとした百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立し、四者が一体となって世界文化遺産登録の早期

で、景観セミナーを実施しています。将来、地域を担っていく子ども達へは、まちの景観について考えるきっかけとなるように、景観学習等の啓発活動を通じて、景観意識の醸成に努めています。

つぎに、景観形成に大きな影響を与える要因の一つである、道路、公園、橋梁、建築物等の公共施設については、「公共施設景観ガイドライン」を策定し、率先垂範して地域の景観に配慮した施設整備に努めます。

5. 終わりに

世界文化遺産候補に相応しい都市景観を創り出し、保全、誘導を進めるには、行政、市民や事業者等の方々が都市の景観を担っていることを自覚し、郷土への愛着と誇りを持つてわがまちの景観を育んでいくことが大切です。また、専門

実現を目指した取組みを進めてきました。

その中で、平成二六年四月に古墳群周辺の緩衝地帯の範囲と三市共通の制限についての方針がまとめられました。

緩衝地帯の範囲については、巨大前方後円墳とそれを取り囲む陪塚の周辺及びそれらの構成資産を包含するように区域を設定しています。設定にあたっては、自然地形や土地利用の状況を総合的に勘案し、出来るだけ道路や水路、鉄道といった地形地物を利用して範囲を設定しています。

緩衝地帯の景観形成については、緩衝地帯全域を景観法による景観地区に位置付けるとともに、都市計画の地域地区のひとつである景観地区に指定し、建築物等に対して意匠や色彩などのルールを定め、認定制度を導入する予定です。また、工作物や開発行為等は景観計画による届出により誘導を行う考えです。

ここで、規制の内容について簡単に述べますと、つぎのとおりです。

まず、建築物の形態意匠について、四つの項目別の基準を設定しています。

一つ目は「通り外観」の基準について、古墳群への眺望や周辺の建築物の配置や形状、敷路と道路との連続性の配慮等を行うこととします。

二つ目は「意匠」について、地域の特

家である建築士の皆様には、景観保全及び資産との調和に寄与する優れたプランを、事業者や施主などの方々に積極的に提案されることを期待しています。

本稿のテーマであり、景観計画の基本目標でもある「歴史文化の薫る藤井寺、個性とうるおいのある景観をめざして」を実践するためにも、世界文化遺産登録の取組みを足掛かりとして世界中へ藤井寺市の魅力を発信し、次世代へ引継ぐ景観形成と活力のあるまちづくりの実現を目指していきますので、ご理解とご支援をいただきますよう、よろしく申し上げます。



津堂城山古墳周辺（近鉄南大阪線藤井寺駅から北方へ約1km）



仲姫命陵古墳周辺（近鉄南大阪線土師ノ里駅付近）



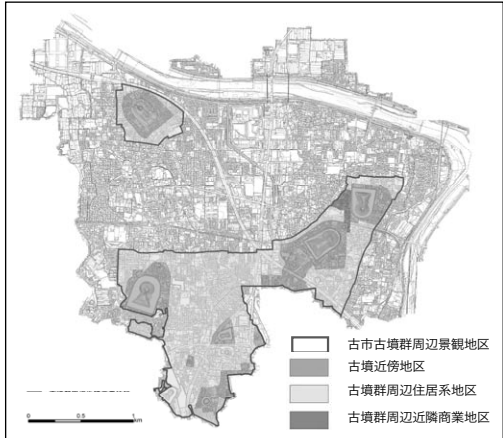
允恭天皇陵古墳から見た住宅地の景観（近鉄南大阪線土師ノ里駅北方付近）



片田 久人
藤井寺市都市整備部まちづくり推進課長代理
一九六八年 堺市生まれ
一九九〇年 近畿大学理工学部建築学科卒業
藤井寺市入庁
二〇一四年 四月より現職



世界文化遺産を大阪に
百舌鳥
古市古墳群



古市古墳群周辺景観地区



耐震化に伴う認定こども園の建替、増築にあたる。
元々、畑として利用していた空地に既存のサルスベリの大木と藤棚を残し、それを取り囲むように保育室を並べ廊下をはりめぐらせた。
周辺環境への配慮および既存棟への圧迫感を軽減させるため、高さを極力抑えた。それにより中央の屋外階段からこんもりとした土手の上に容易に降りてくることができる。
園で毎日を過ごす子ども達の記憶に残る環境を造りたいと考え、建築がその手助けになればと思う。
時の経過とともに森の中にたたずむ建築になれば嬉しい。（栄 隆志）

所在地：大阪府豊中市
用途：認定こども園
竣工：2015.03
構造規模：S造地上3階
敷地面積：6,036.58㎡
延床面積：791.08㎡
建築面積：401.82㎡
写真：笹倉洋平



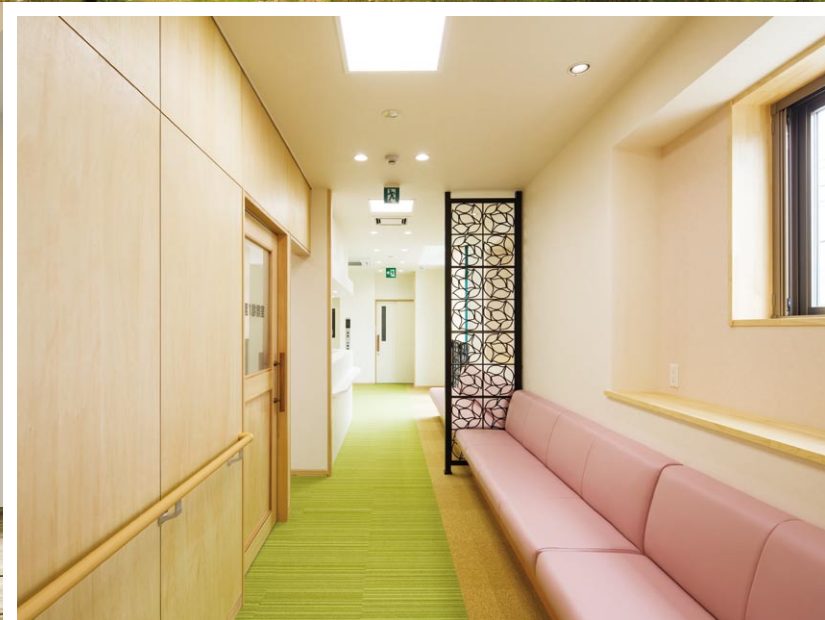
若い女性用靴下・インナー SPA 企業の本社ビルを大阪城公園に近い森ノ宮に計画しました。チュチュアンナのビジョンである「カワイイを、未来へ。」をコンセプトに、企業イメージを映し出すファサードとともに、知的創造性を高めるワークプレイス、まちとつながる様々な仕掛けを提案しました。外壁は丸型ガラスブロックを花柄に打ち込んだ菱形の白色 GRC パネルとし、光輝く繊維をイメージしたカワイイ外観をまちに発信しています。テラスと連続した執務スペース、モノを手にとって検討できる仮想店舗やサンプルルーム、礼儀作法を学ぶ茶室、様々なリフレッシュコーナーなど、モノづくりを追求できる空間を創りました。（森 雅章）

所在地：大阪府中央区
用途：事務所
竣工：2015.04
構造規模：鉄骨造
地上8階
塔屋1階
敷地面積：1574.11㎡
建築面積：1071.43㎡
延床面積：5617.44㎡
写真：津田裕之



この家は、京都の中心から車で20分ほどのいわゆるベッドタウンとして良好な住環境の中にある。最近では中庭を設け内外空間の連続性をテーマにすることが多く、今回は外部空間の中心は池であった。この池は1階のすべての部屋から望むことができ、池を取り巻くガラスと相まって、透明感のある外部空間となっている。居間にあるガラス戸の方立を透明ガラス3枚合わせにしたこともあり、内部と外部が連続した涼やかな空間となった。この池は当初、単に小魚を飼うためのものであったが、今やこの家の中心的な存在となっている。水の透明感を維持するには相当な労力を要するかもしれないが、必ず魅力ある暮らしをもたらしてくれるはずである。

所在地：京都市左京区
用途：専用住宅
竣工：2014.02
構造規模：混構造
(1F:RC造＋2F:木造)
敷地面積：208.00㎡
延床面積：121.93㎡
写真：松村芳治



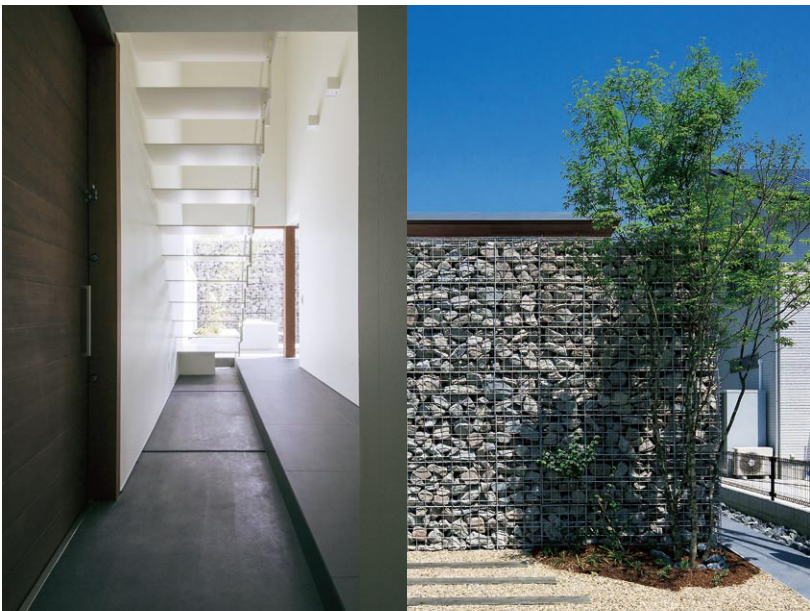
震災後20年。「神戸の街に神戸らしさを」の想いで設計した。阪神間は、六甲山を背後に、港に面する南向きの斜面に位置し、世界でも有数の住宅地である。海と山が近い土地が醸し出す風土が、ある種のファッションセンスを養ってきた。この建物は、近くで営んでいた整形外科の移転及びワンルームマンションの計画である。病気やけがをお持ちの体力的弱者に配慮した色とはなにか。色については少し地味だが、元気な気持ちになってほしいとメッセージを込め、さらに色の調和を図った。建物は、電車からもよく見え、神戸の人に愛される建物になる事を願っています。(石丸信明)

所在地：兵庫県神戸市
用途：診療所付集合住宅
竣工：2015.05
構造規模：鉄筋コンクリート造
敷地面積：182.01㎡
建築面積：138.40㎡
延床面積：638.24㎡
写真：笹倉洋平



経営者として多忙な日々を送るご夫婦が、今後は、家に過ごす時間を大切に
して、多くの友人を招いて、住まいを楽しみたいとのこと。その空間を「Rich
Communication」というデザインコンセプトで創り上げた。既存のRC躯体の柱、
梁、耐力壁はすべて残し、外壁の開口部はカバー工法にて、建物全体の断熱
性能を向上させ、1階LDKと2階のバーラウンジを南北の外壁面までの吹き抜け
で繋いだ。そのことで、自然光、風を取り入れると同時に、唯一新設した外壁開
口部によって、六甲山への眺望という、場所特有の風景をインテリア空間に取り
込み、人と人、自然、そして風景との豊かなコミュニケーションが生まれる空間を
提供している。（高原浩之・幸子・Hugo Fromell HTAデザイン事務所）

所在地：兵庫県西宮市
用途：専用住宅
竣工：2015.05
敷地面積：239.02㎡
建築面積：143.57㎡
延床面積：282.37㎡
写真：母倉知樹



敷地のすぐ近くを山陽新幹線が走り、周囲は建物が建て込んでいる。ク
ライアントの要望の中で最も特徴的だったのが「蛇籠を使うこと」。最終
的にいくつかの提案の中でも最も大胆な、ファサードに幅 5.5m、高さ 3.5m
の蛇籠を出現させる案が採用となった。部屋の中は比較的暗く抑えト
ーンを落とし、蛇籠を含む中庭が際立つようにしてある。中庭に立ち和室
側を見ると、暗めの空間を経て地窓からギリシマツツジの鮮烈な赤が控
えめに目に入り込んでくる。本計画は一見大胆な思い切った計画である。
しかし実際にその場で感じる空間体験は、そのような印象ばかりでなく、
むしろ非常に落ち着きのある何とも居心地の良いものになったと思う。

所在地：高砂市中島
用途：専用住居
竣工：2015.04
構造設計：うきょう建築
構造事務所
構造規模：木造
敷地面積：190.65㎡
建築面積：81.99㎡
延床面積：111.04㎡
写真：喜多 章

立命館大学近本智行教授をプロジェクトリーダーとするグループ（プロジェクト名：水と暮らしの重ね箱）が一般社団法人環境共創イニシアチブが募集する「エネマネハウス 2015」に採択されました。今秋の一般公開に向け、現在設計進行中である新しいZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）への取り組みを近本さんにご紹介いただきました。

エネマネハウス 2015 について

近本 智行

東京大学大学院博士課程修了。日建設計勤務を経て、立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 教授。立命館サステイナビリティ学術センター、東京大学生産技術研究所 研究員兼務。専門は建築都市環境工学、建築設備工学。著書に「改訂版 建築物の環境配慮技術手引き〜環境にやさしい建築を目指して〜」（大阪府・大阪府建築士事務所協会、2011 年）他

エネマネハウス

エネマネハウスとは、経済産業省・資源エネルギー庁の事業の一環で、実際にモデルハウスを建設しながら、大学と企業が、いわゆるコンソーシアムをつくって先進的な技術や新たな住まい方の提案を行うプロジェクトである。省エネと創エネを組み合わせ、年間のエネルギー収支ゼロを目指した住宅ZEH（net Zero Energy House）の推進による多様な価値の創出、質の高い生活を実現する住まいの提案、革新的アイデアを生むプラットフォームとして、コンペティション形式で実施される。

第一回は昨年の冬に「エネマネハウス 2014」として東京ビッグサイトで開催された。慶応義塾大学、芝浦工業大学、千葉大学、東京大学、早稲田大学の五校が採択され、アイデアを競った。関東の大学ばかりだったため、第二回となる今回の「エネマネハウス2015」では、関西での開催が模索されつつも、結局、横浜みなとみらいでの開催としながら、関東学院大学、芝浦工業大学、早稲田大学の関東勢に加え、山口大学と立命館大学の五校が採択された。

本事業では、大学と民間企業等との協働により、学生が考える、将来の家をテーマに、「①エネルギー」、「②ライフ」、「③アジア」をコンセプトに掲げている。あくまでも主体は学生であり、①省エネルギー技術に長けた人材の育成・獲得、②実証・展示を通じた世の中への発信、③ZEHに不可欠な産学連携の実践の場の提供、④海外展開を視野に入れた省エネルギー技術のパッケージ化による産業競争力の強化を目指す、とされる。

的に三五〇名ほどの親子に参加頂き、関心の高さが感じられ、その場で景品を追加していった。

立命館大学の提案

立命館大学では、これまで琵琶湖の水再生をはじめ、さまざまな水に関する研究活動を行い、社会に発信してきた。日本は世界でも有数の水に恵まれた国だが、生きていく上で重要な水を満足に享受できない国が世界にはたくさんある。そこでグリーンビル・コンソーシアムの取り組みを発展させるため、「水とグリーンビル研究会」を立ち上げた。この研究会活動の一環でエネマネハウス2015の公募に対し、「水と暮らしの重ね箱」というタイトルで、「水の徹底的な活用」を図り、環境共生と快適な生活を両立させる持続可能な住まいのあり方を考えることとした（図4）。

水を活用した快適な住まい・ライフスタイルの提案

これまでのZEHでは、電気や熱といったエネルギーの削減に焦点があてられてきた。もちろん、本計画では、太陽光発電や燃料電池、太陽熱集熱装置を備えている。今回更に、持続可能な水の使用を考えるため、水循環のサイクルを住宅内に取り入れ、エネルギー、CO2排出量の削減とともに水の有効活用を目指すこととした。

まず採り入れたのが水のカスケード利用である。屋根で集めた雨水を、風呂、洗濯、トイレの順番で垂直にカスケード利用する。水廻り設備を積み重ねることで、水のカスケード利用を可視化し、居住者にも水のカスケードを感じさせる。

ている。

評価は、提案内容の①コンセプト・アイデア、②省エネルギー効果、③技術、④実行力に加え、⑤教育・啓発・コミュニケーション、⑥将来的な普及・展開が対象とされ、また完成したモデルハウスの①エネルギー消費量、②発電量、③日負荷率、④温湿度や昼光率、CO2等の室内環境を測定することで、建物の評価が行われる。

コンソーシアムによる環境配慮建築

言うまでもなく、環境に配慮した建物をつくればそれで終わり、というものではない。立命館大学でもこの点の問題意識を強く持ち、エネマネハウスに取り組み前に大学という場で、施設の環境配慮だけでなく、研究・教育へもつなげるための実験的取り組みを行った。立命館大学びわこ・くさつキャンパス理工系新棟（トリシア）（図1）では、環境配慮型キャンパス創造の一環として、CASBEでSクラス（Best）はもろんだが、それだけではない取り組みを検討した。その取り組みとは、既に確立されている技術の他に、実用化を目指した省エネ、環境負荷軽減技術、あるいは実験・実証を行ってみたい設備、建設材料を、様々な環境配慮技術を有する企業の協力を得て導入し、その効果を実際の建物で検証してゆくというものである。環境配慮技術を積極的に取り込む仕掛けと同時に、研究素材としても利用できる建物とするものである。研究成果に関する情報は参加企業と共有するとともに広く社会に公表し、最先端環境技術の発信拠点としての研究棟を目指す。

このために、「立命館サステイナビリ

利用した水の一部は、浄化槽とろ過膜を通して再利用する。

水の循環と共に、熱の循環、電気の循環を目指している。

また空間構成は入れ子構造とし（図5）、空調空間を限定し省エネルギー化を図りながら、自由な使い方のできる中間領域をつくり、外とのつながり方を考える。中間領域では信楽焼きのタイルに打ち水することで、涼しさもたらしている。

建具などは季節ごとに衣替えできる構造とし、居住者の自由度を大きくすることで環境への適応を図りやすくする。また、フレキシブルなシステムにすることで、居住者層の幅が広がり、家族の年齢や生活スタイルの変化に対応できる。

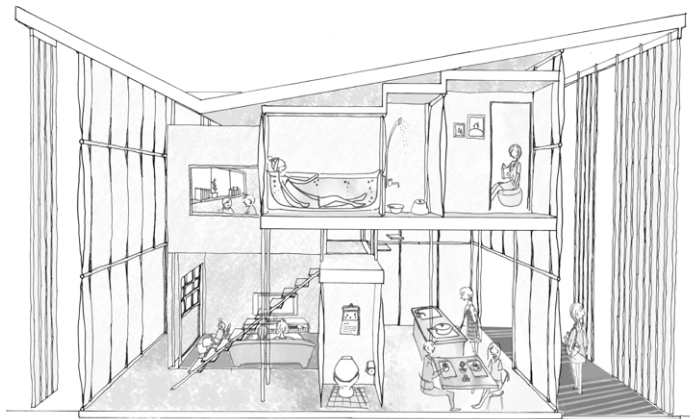


図4 水と暮らしの重ね箱

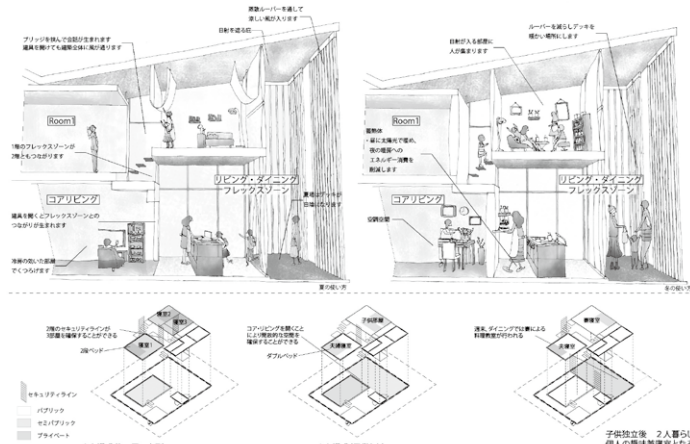


図5 入れ子構造と多世代の住み継ぎ

ティ学研究センター」に、「グリーンビルディング・コンソーシアム」という組織を新たに立ち上げ、二〇社の企業に協力頂いた。研究的要素が多く含まれるので、大学と企業の間で共同研究が活発化し、建物完成後も継続して研究の遂行を目指すものであり、学内の研究拠点化にもつながっている。

検証にあたっては、建物を使用し、効果や不具合を実体験で確認しながら、教員・研究者や学生が、技術提供した企業と一緒にやって効果を確認している。例えば外壁断熱では、同じ向きの壁面で部位別に異なった断熱方法を採用し、比較検証が可能となっている。また、パソナル空調や、天井放射冷暖房の検証では、窓の向き・大きさ・仕様が共通の二室をそれぞれ準備し、異なる空調方式での居住者実験ができるようになっていく。

建物での実装以外に、パンフレットやポスターを作成し、現物を確認しながら、技術を学ぶことができるよう配慮している。技術の紹介にあたっては、学生の意識レベルで学ぶという観点から、漫画サークルの学生に、表現してもらった（図2）。パンフレットに作者のクレジットを掲載することで、作者の実績をアピールする場としても活用してもらっている。建物見学にあたっては来訪者の案内にも学生に積極的に対応してもらっている。

施設開設時に、トリシアの環境配慮技術を親子と一緒に学んでもらおうという主旨でスタンブラリーを開催した。建物各所に設置してある環境配慮技術毎に、その場所にポスターを設置し（図3）、実体験してもらいながら技術を紹介した。三〇個景品を準備していたが、結果

今後の展開

どこかで見たことのある、ありきたりなスマートハウスやZEHから、より環境に優しくながらも生活を豊かにする知恵の感じられる提案が、このエネマネハウス2015で見ることができないのではないかと、出展側で、またコンペティターでありながらも、期待しているところである。

短いスケジュールで、大変なプロジェクトではあるが、学生・教員仲間や企業の皆さんと一緒に頑張ってゆきたい。是非、この秋、横浜みなとみらい（会場の最寄り駅は、みなとみらい線 新高島、もしくは横浜市営地下鉄 高島町）に足を運んで頂ければ幸いである。一般公開は十月十七日（土）〜十月二十日（火）及び十月三十日（金）〜十一月一日（日）が予定されている。



和モダンを極める

大地の恵みである土を素材にした陶器と、
シャープな印象を放つクローム。
日本的な静けさと西洋的な華やかさを
兼ね合わせたTOHは、洗練された
落ち着いたある水まわり空間を創ります。



SAN-EI

www.san-ei-web.co.jp

株式会社 三栄水栓製作所

理事会報告

文責 本会事務局

日時 七月十五日(水)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室
出席 理事三四名、監事二名

(1) 会計報告について

六月計の期経常増減額は、収入一三、二八
七、八八三円、支出一四、七二九、九六〇円、
差引△一、四四二、〇七七円であり、本年度
累計の収支差引は三五、二〇七、四九六円を
報告して承認された。

昨年同時期と比較して、耐震評価、耐震講
習会、法改正講習会が収入増となっている
ことを報告した。

(2) 会員動静について

役員・委員による入会勧誘、また退会者に
復帰していただく努力の成果により、昨年
度同時期に比べ退会者が減少傾向にあるこ
とを報告した。

(3) マンション維持管理支援運営規程について
マンション維持管理支援運営規程案につい
て検討した結果、建築士会アドバイザー
の業務として、施工業者への発注支援、長
期修繕計画の見直し支援を含めることとし
て、規程を承認した。

(4) 省エネ講習会について

国交省による二〇二〇年までの新省エネ基
準への適合の義務化に伴い、国交省の補助
事業として「大阪府住宅省エネルギー設計
技術講習会」を本会で開催するもの。
八月からの実施に向けて、特に受付先着
五〇〇名の建築士会会員を対象にした受講
料一〇〇〇円を全額補助して受講を促すこ
となどの受講のメリット、講座内容等につ
いて承認した。

建築相談

建築士の見たトラブル事例 (二十九)

悪徳リフォーム

編・構成 橋本頼幸

リフォームのトラブルや相談は後を絶ちません。
そんな中でも悪徳リフォームは高齢者を狙う詐欺
的な手法が社会問題になりました。今月は、悪徳リ
フォームについて相談員の山本勝章さんに話題提供
いただきました。

悪徳リフォーム被害とは

一般の消費者、特に高齢者等の家に訪問して、言葉
巧みに信頼させ、または強引に高額な建築請負契約
を結び、不必要な工事、意味の無い補強工事、杜撰な
工事等をおこなう事です。ほとんどの場合が訪問販
売で、業者の形態も店舗や事務所等を持たず、電話
だけのつながりだけのグループも少なくありません。
次々と工事が連続して行われるようなこともあり、被
害額はトータルで二十万円を超えることもあります。

工事の特徴

そのような工事は一般の人の目の届きにくい所が
大半であり、床下、小屋裏、屋根等を中心に、設備工
事等も対象になります。無意味な補強工事や床下
小屋裏換気の工事、床下の防蟻、乾燥剤散布などが
主な手口です。一般の人からみたら必要そうで、工事
前後の確認も検証もしにくいところが狙われます。



写真一 床下の無意味な補強工事



写真二 床下に大量に散布された乾燥剤？



写真三 高額で不必要な床下換気扇

代表的な床下の悪質工事

写真一の床束と大引き周辺に取り付けられた、
補強金物らしき金物は明らかに不必要です。本来
はかすがい程度で足りる所にたくさん金物をつ
け、高額な工事を請求する事例です。

写真二は、床下に乾燥剤と称する白い撒き砂(恐
らくゼオライト)の事例です。本来の床下地盤は乾
燥状態であることが確認できており、床下に周辺の
雨水が流入する可能性も低く、乾燥剤を使用しな
ければならない程の湿気があったとは思われない状
況でした。また、メンテナンスできないほど投入されて
いました。不要かつ高額な請求がされていました。

写真三は、床下に付けられた攪拌扇と換気扇で
す。工事は台数十数万と高額でもあり、居住者
が希望して設置したものではありませんでした。ま
た、床下の乾燥状況および換気口も整っており必要
性にも疑問がありました。

団体の役割

悪質リフォームは警察等の取り締まり強化の効
果もあり、相談件数は減少しています。しかしその
手口は、悪質化複雑化して、なお潜在しています。
被害をなくするためには、建築士の技術や経験は不
可欠です。同時に団体としての建築士会が社会に
アピールすることで被害をなくすことにつながるの
ではないでしょうか？

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也

文 牧野隆義

中之島の対岸の水面にライトアップされた幻想的
な建築物「住友ビルディング」を取り上げたい。

計画当初は、第一次世界大戦後の、好景気から一転
厳しい経済状況のあり、事業拡大のため建物建設は
懸案事項であった。そこで住友総本店工作部内に組
織的な設計体制が生まれ設計が進められた。しかし、
大正二年(一九一三年)に未曾有の関東大震災が発
生。計画はその惨状を踏まえ、当初の七階建を五階
建に設計変更した。工事は二期に分けられ全体の竣
工は昭和五年(一九三〇年)で、当時の風景は今とは
違い周辺にまだ町家や土蔵がたくさん並んでいた。

建物は戦前、住友財閥の経営統括本部ビルと位置
づけられ、住友合資会社と傘下の住友銀行等、関連
企業各社の本社事務所が入居した。戦後の財閥解
体後はGHQ第一司令部、住友銀行本店を経て現
在は三井住友銀行大阪本店営業部となっている。

重厚な佇まいではあるが、装飾は簡潔なものとし
て、イオニア式の柱を配したエントランスが訪れる者を
やさしく迎え入れてくれる。均整の取れたプロポー
ションは、現代の高層ビルディングにはない、落ち着いた
まちなみを提供し続けている。

建築人 8 2015

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会
編集	建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表	米井 寛
編集人	荒木公樹 飯田英二 河合哲夫 黒川祐樹 筑波幸一郎 中江 哲 橋本頼幸 牧野隆義 事務局 山本茂樹 母倉政美 印刷 中和印刷紙器株式会社



三井ガーデンホテル京都新町 別邸 小林浩明／竹中工務店

京都・新町通の商家をホテルに建替えたプロジェクトである。この地にはかつて築100年を超える「旧松坂屋京都仕入店」があり、京都に残る数少ない「大店」の構えを今に伝えていた。建替えにあたっては、歴史を継承するため旧建物の外観を再現し敷地内の土蔵や古材、庭石などを再利用するという基本構想の要旨を設計条件に取り込みながら全体計画を行った。

外観は切妻屋根や軒・フィンによって水平性やまちなみとの連続性を強調し、歴史への敬意を表現している。既存建物のうち土蔵のひとつは保存活用し、新たにホテルの一部としての役割を与えた。新築のホテル棟低層部でかつての商家を再現した部分には実際に木や漆喰を用い、京町家ならではの軸組も忠実に再現することで「本物」たること、歴史の正統な継承者たることをめざした。また煌びやかな意匠表現をあえて避け、全体にわたって墨色のコンクリート化粧打放仕上を基調に寡黙、抽象的かつ端正なディテールを与えた。抑制を効かせた表現が京都の人々にながく受け継がれてきた価値観の節度や品位を感じさせ、現代建築の表現としての「京都らしさ」へ繋がってゆくと考えた。

内部空間は中庭を中心に、分節された空間が展開する「邸（やしき）」のような構成としている。また、モダンな中に「日本建築の美しさ」を昇華させた繊細なディテールをちりばめることで、現代性と伝統性のコントラストを際立たせ、来訪者をこころよく刺激することをめざした。

撮影：古川泰造、ナカサ&パートナーズ 第7回建築人賞受賞作品

■建物データ

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

基本構想：アーキテクトオフィス

設計監修：S&T FIVE STAGE

内装設計：竹中工務店+三井デザインテック

庭園設計・施工：荻野寿也景觀設計

レストラン設計：永山祐子建築設計

レストラン施工：インマル

所在地：京都市中京区新町通六角下ル

六角町361他

建物用途：ホテル

竣工：2014年2月

構造・規模：RC造 B1・F5・P1

敷地面積：1,705.29㎡

建築面積：1,200.11㎡

延床面積：5,528.31㎡

